



前回の例会報告

第2174回例会5月10日(木)

於・例会場 PM 0:30~1:30

- 点鐘 田口会長
- 国歌斉唱
- ロータリーソング “奉仕の理想” 斉唱
- 四つのテスト唱和
- 出席報告 関根委員長

| 日付 | 出席 | 欠席 | メーク | 出席率 | 天気 |
|-------|----|----|-----|--------|----|
| 4月26日 | 20 | 3 | 1 | 87.50% | 晴 |

○委員会報告

★雑誌委員会 木村委員長
 今月は青少年奉仕月間です。やはり交換学生を受け入れたホストファミリーの体験談が主な内容です。
 横 P03→RI 会長メッセージは、「新しいビジョン声明」についてです。欧文から始まる標語をお読み下さい
 横 P07→青少年交換学生を受け入れた各クラブの想いが紹介されています。ロータリアンの高齢化による世話ファミリーの不足が問題になっているそうです。ローテックス(ROTEX)という言葉が出てきます。覚えておきましょう。
 横 P16→ライズリー会長の「一人一本の木を植えよう」という会員への課題について、会長自身が木を植える意味について語ったインタビューが、美しい挿絵とともに紹介されています。植樹の挑戦は4月で公式には終了したそうですが、このプロジェクトの継続を各クラブに期待しています。
 横 P32→漫画『米山梅吉ものがたり』だそうです...
 縦 P04→我が第2820地区第6分区 IM の講演の内容が掲載されています。つくば市職員で南極越冬隊に参加した「変わっている」方の、スピーチの要約です。極地に興味のある方、住んでみたい会員はどうぞ。
 縦 P16→『職業奉仕はロータリーの根幹か?』(2017年1月号)の記事を取り上げています、次頁の投稿も含めてロータリアンの職業奉仕への熱い思いが伝わってきます。
 縦 P28→古河クラブは地区補助金を利用して植樹したそうです。
 縦 P22→俳・歌・柳ですが、先ず言わなければならないのは編集者へのクレーム。先月号で撰ばれた同じ短歌が載っていますよ。印象に残った歌だけに覚えていました。編集の方々

は大変だろうと思いますが、活字になるとミスは取り返しがききませんので、校正には特に細心の注意をお払い下さい。さて本文ですが、古河東の方の「テネシーワルツ」同世代なのかな?私はパティ・ペイジのほうが好きなんですけど... 古いなあ、いいなあ。川柳は3句判らないのがあります。最初の句、解説者は絶賛していますが「絞り」切ったのは、「憧れ」の感情なのか「あなた」一人になのか?「憧憬」の気持ちが恋愛感情に変わったのですか?それとも多情な女性(失礼!)が好きな相手を一人に決めたのですか?いやはや女心ってやつは... 右頁最後の句、えげつない食べ方をした王子さまってどなたのことですか?内緒で教えて。左最後から5首め、「森・加計問題」の時事川柳なのかしら?疎いので解りません。政治の嘘はおとなでも見過ごせませんが、私の下らない「友」紹介はこの秀逸で結びます。 「このへんでおわりにしようおとななら」

- 幹事報告 加部東幹事
- ・幹事メモの報告
- 青少年奉仕フォーラム 小野瀬委員長



青少年の健全育成は大きな感動を与える奉仕で、青少年奉仕はロータリーの奉仕の理念を次世代を担う若者に伝え育成する価値ある奉仕です。そして第5の奉仕として2010年に社会奉仕から独立しました。シカゴRCが誕生8年後(1913年)にニューヨーク州シラキュースRCが障害を持つ少女の支援プログラムを立ち上げたことが最初の青少年奉仕で、以来、青少年の健全育成に共鳴したロータリアンに広がり全世界のRCで奉仕運動が進めら

れました。1916年シンシナティ大会で青少年のための常設委員会が設置されました。1920年アトランタ大会で青少年奉仕活動を含めるための細則改定が決定され、1924年RIは全世界のRCに青少年奉仕活動委員会の設置を義務づけました。1924年カールビンソン米大統領が青少年奉仕委員会の名誉会長に就任し、ロータリアンに感動を与えました。1924年青少年奉仕の目的が「青少年を良き市民、立派な職業人に育て、全ての青少年に潜在能力を引き出す意識を与える、そして職業訓練を推奨し、ロータリー精神を未来に伝える」と明確化されました。

2010年に青少年奉仕が独立した背景には、青少年奉仕プログラムの全体に占める割合が80%を超えることから、未来を担う若者たちの将来を見据えた育成こそがロータリアンの大きな夢となったことがあげられます。

青少年奉仕プログラムをいくつか挙げてみたいと思います。RYLAは1971年国際ロータリーがRIプログラムとして正式に承認され、その狙いは、青少年のリーダーシップの育成プログラムです。1959年にオーストラリアのロータリアン達で、10代の若者たちに交流の機会を与え1週間の研修をしました。研修内容は、交流、文化、教育活動が計画され、個人的成長が図られました。

青少年交換プログラムは、デンマーク・コペンハーゲンRCが少年数名を受け入れることからスタートしました。

1928年300人の青少年が「世界平和の若き巡礼者＝Youthful Pilgrims of World Peace」としてアメリカからスカンジナビアの家庭を訪れ5週間滞在しました。1928年RIは青少年交換プログラムを正式に承認し、RIプログラムとして今日に至っています。

RYLAに関するRIの方針は、14～30歳の人生やキャリアの目標意識が強くなる年齢の若者を対象に、技量と人格を養いながら、奉仕、高い道徳的基準、平和への理解などロータリーの価値観を学ぶ機会を提供し、人間形成を図ること（リーダーシップの育成）、グループ活動、経験を通しての学習、親睦とネットワークづくりに効果的なプログラムを提供すること、開催期間中の青少年保護に努め、特に、危機管理の徹底を図ること、セミナー参加者の関係維持に努めることとなっています。

青少年交換プログラムのRIの方針は、異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会を与えることで、世界平和に貢献するための青少年育成プログラムとなっています。具体的な目標として、「自分で考え、率先して行動する力を養う」、「外国語や異文化を学び国際理解を図る」、「海外の若者と交流し、友達をつくる」、「自覚を養うことでグローバルな市民になる」の4つが掲げられています。プログラム推進のため、ガバナーは、地区内に青少年交換委員会と危機管理委員会を設置し必要な保険に加入し、RIの承認を受けていること、青少年交換委員長は、ロータリークラブ（RCという）の協力を得て派遣学生の選考と受け入れ学生の受入れ体制を定めること（受け入れ学生は4ホストファミリーをクラブにより選定してもらうこと）、受け入れ学生にはRC内にロータリアンの専任カウンセラー定め学生の面倒を見ること、RCは、地区と調整を図りながら青少年交換の活動を実施すること、RCとホストファミリーは、地区主催の青少年交換会議に出席すること、出席が義務づけられている行事（オリエンテーション・地区大会）に交換学生が出席するよう努めること、派遣および受け入れの起点場所は、最寄りの空港であり、地区青少年交換委員会が出迎え・見送りを責任をもって実施すること、青少年交換委員会とRCは、学生の滞在中の安全確保に努めること、宿泊費、食費、学費、国民健康保険、リスク保険はロータリーが負担すること（往復航空券、旅行傷害保険、旅券とビザにかかる費用、小遣い/現地での旅行やツアーに参加する場合の費用は学生の負担）といったさまざまなルールが決められています。交換学生のホストファミリーとなるこ

との利点は、海外からの学生のホストファミリーとなれば、自宅で国際交流ができ、家族みんなで貴重な経験ができます。学生に個室と食事を提供するだけでなく、家族の一員として、地元の行事と一緒に参加したり、文化体験をさせてあげるなど、学生にとって大切な親となることができます。学生の帰国後もメールの取り交わし等での未永い国際交流ができます。青少年育成プログラムに参加した学生たちの喜びと成果の事例としては、留学先で更に大学に進み、卒業後外資系の会社で活躍した、将来、国連職員を目標に挑戦中、来日した外国人の通訳などで世話をする（オリンピック等）、語学力を磨きJAICAで働く夢を持つことができた、語学力を生かした学校の教員、自治体の国際交流の場で活躍している、旅行会社の社員として活躍している、外国人、日本人を問わず違和感なく交流できるようになった喜びは大きい、文化・歴史に関係した大学の先生になる目標が具体化した、自分で考え行動することができるようになった（独り立ちになる自信がついた）、ROTEXに加入して後輩の指導や奉仕活動に励みを感じている、社会に出た時に青少年交換学生の経験は十分仕事の上でも役に立っていると感じた。（ロータリアンとの交流を通して、ロータリーとは何か、また、その活動の素晴らしさを感じた。）、母校に復学してから、学友に体験を話すことが楽しい、また、効果的な語学の勉強の仕方ができるようになったなどがあげられます。

RYLA参加者の事例としては、短期間で仲間づくりができ、グループを纏める能力を高めることができた、人の意見をよく聞くようになり、意見交換に違和感なく自然体できるようになった、炊事の勉強になった、人前で研究成果の発表に自信がついた、物事を分析・探求するための洞察力を養うことができた、外国人の考え方、発想の仕方が勉強になった、「英語会話の勉強ができた。下手な英語でも進んで会話を交わすことができるようになった。」、引込み思案な自分が前向きに人との会話ができるようになった、物事を纏めるための手法を知ることができた、「外国からの留学生には自己主張できる訓練が若い時からできていると感じた。自分もそのようになりたい。国際人になるには必要条件であると感じた。」、「見知らぬ仲間との出会いは、数多く持つことが大切、自分を大きくすることに通じる。」といったことが報告されています。

ロータリーは、よりよい社会を築くための人づくり運動です。青少年の健全育成を通じた感動は、参加して初めて味わうことができます。RIは、青少年の健全育成にロータリアンの多くが奉仕活動に参加することを期待しています。全てのクラブが青少年のために何か一つ良いことをしてみようではありませんか！！

次回例会 第2176回例会

5月27日（日）

**於：つくば/バホール
RI第2820地区大会**

出発 7:30 大洗町役場前

【今月は青少年奉仕月間です】

今月のロータリーレート \$1=¥108